



Zephyros86

国立西洋美術館ニュース

ゼフュロス

ISSN 1342-8071

憧憬の地 ブルターニュ

モネ、ゴーガン、黒田清輝らが見た異郷

2023年3月18日〔土〕－6月11日〔日〕



1



2

1 クロード・モネ《ポールニドモワの洞窟》1886年 油彩・カンヴァス 茨城県近代美術館

2 シャルル・コッテ《悲嘆、海の犠牲者》1908-09年 油彩・カンヴァス 国立西洋美術館 松方コレクション

3 黒田清輝《プレハの少女》1891年 油彩・カンヴァス 石橋財団アーティゾン美術館



3



4



5



6

- 表紙・4 ポール・ゴーガン《海辺に立つブルターニュの少女たち》
1889年 油彩・カンヴァス 国立西洋美術館 松方コレクション
- 5 エミール・ベルナール《ボン・タヴェンの市場》
1888年 油彩・カンヴァス 岐阜県美術館
- 6 ポール・セリュジエ《ブルターニュのアンヌ女公への礼賛》
1922年 油彩・カンヴァス ヤマザキマザック美術館 (5月7日まで展示)

フランス北西部、大西洋に突き出た半島を核としたブルターニュ地方は、古来より特異な文化圏を形成していました。断崖の連なる海岸に代表される雄大な自然、先史時代の巨石遺構や独特な宗教的モニュメント、ブルトン語を話す人々の素朴で信心深い生活様式——このフランスの内なる「異郷」は、19世紀ロマン主義を迎えると人々の注目を集めるようになります。美術の領域でも、新たな画題をもとめる画家たちがブルターニュを目指し、以来この地は流派や国籍を問わず多様な画家たちを受け入れることになります。本展では、19世紀後半から20世紀はじめの日欧作家50人以上によるブルターニュ地方を主題とした作品約160点を軸に、関連する資料や文学作品も交えながら、それぞれの画家たちがこの地に何を求め、見出したのかを探ります。

第1章では、ブルターニュ地方の景観を描いたイギリスの風景画家ウィリアム・ターナーの水彩画など、19世紀初めの「ピクチャレスク・ツアー（絵になる風景を地方に探す旅）」を背景に生まれた作品から出発し、交通網の発達が旅を身近なものにした世紀後半以降の版画作品やポスターを展覧することで、時代とともに形成され、流布していくブルターニュのイメージを概観します。章の後半では、ウジェーヌ・ブーダンやクロード・モネら、旅する印象派世代の画家たちがとらえたブルターニュ各地の表情豊かな風景を前に、自然と向き合う画家たちの真摯なまなざしを感じ取ることができるでしょう。つづく第2章では、次世代のポスト印象派の画家たち——すなわちブルターニュに繰り返し滞在し、野生と原始的なるものを探求したポール・ゴーガン、また彼を取りまくポン・タヴェン派の画家たちの作品を集め、彼らの革新的な表現様式とブルターニュ特有の風土との関わりを見ていきます。さらにブルターニュに別荘を構えてこの地を見つめ続けた版画家アンリ・リヴィエールやナビ派の画家モリス・ドニ、「バンド・ノワール」と呼ばれたシャルル・コッテやリュシアン・シモンらに捧げられる第3章では、それぞれの画家が長期にわたる土地との対話のなかで培ったまなざしの行方を追います。最終章は、これまであまり注目されてこなかった日本の近代画家および版画家たちのブルターニュ滞中に光をあてる新しい試みとして、黒田清輝や久米桂一郎を筆頭に、山本鼎や藤田嗣治、岡鹿之助らが描いたブルターニュの風景や風俗をご覧いただくとともに、彼らの足跡をたどります。

本展にて画家たちのまなざしを借りながらブルターニュの各地をめぐり、芸術を育むその奥深い風土を体感していただければ幸いです。 【国立西洋美術館主任研究員 袴田紘代】

breton
source d'inspiration

橋本コレクション展

指輪よりどりみどり

2023年3月18日[土]－6月11日[日]

隕石、歯、髪の毛、紙、化石となった魚の骨―これらは当館所蔵品の素材の名前ですが、それはいったいどんな作品でしょうか。答えは指輪です。国立西洋美術館は約870点にもおよぶ指輪を主とする宝飾品を所蔵しています。これらはすべて橋本貫志氏より2012年に当館に寄贈され、「橋本コレクション」と呼ばれています。

ダイヤモンドやルビーなどの宝石の数々、あるいはカルティエやブルガリといった名だたるメゾンは、ジュエリーの名にふさわしい橋本コレクションの華やかなアイテムの例ですが、冒頭にあげたような素材からなる風変わりな指輪もコレクションを特徴づける重要な顔ぶれです。素材に限った話ではありません。時代も地域も形式も技法も、かたよることなくてんばらばらに収集されているのです。この指輪の多様性こそが、橋本コレクションの稀有な特色です。

本展ではこの持ち味を生かすよう、種々雑多な作品を取り揃えて皆さまをお待ちします。街中でウィンドウショッピングをするかのように、展示室でぶらぶらしてください。きっとお気に入りの指輪に巡り合えるはずです。

[国立西洋美術館主任研究員 飯塚隆]



《星形ダイヤモンドで装飾された金銀製リング：『星が浦』》18世紀
ガラス、ダイヤモンド、真珠、金、銀 4.0×2.1×2.3cm 国立西洋美術館
橋本貫志氏より寄贈

2022年度新規収蔵作品より

ホアキン・ソローリャ《水飲み壺》



ホアキン・ソローリャ《水飲み壺》
1904年 油彩・カンヴァス 151×98cm 国立西洋美術館

ホアキン・ソローリャ(1863-1923)を知っていますか？

彼は、19世紀末から20世紀初頭にかけて、地中海の光彩に輝くスペインの風土と人々を描いて国際的名声を得た、同国の誇る国民的画家です。戸外制作を礎として、陽光の織り成すセンセーションを生き活きとらえたルミニスモと称される独自の絵画を作り出し、スペイン美術の近代化に貢献しました。マドリードにある彼の邸宅兼アトリエは美術館として公開されており、訪れたことのある方もいらっしゃるでしょう。

今回国立西洋美術館は、彼の代表作の1点に数えられる《水飲み壺》を収蔵し、没後100年という記念の年を迎える2023年、初公開いたします。これは、画家の円熟期1904年の晩夏、故郷バレンシアの砂浜で描かれました。浜辺の掘立小屋で、少女がまだおなかの出た小さな幼児に壺から水を飲ませており、背後では半分開いたドアから、一条のまばゆい光が差しています。ソローリャの幼き者に対する愛情に満ちた眼差しと、光を捉える色彩の魔術の際立った作品で、1964年、画家の生誕100年を記念してスペインで発行された記念切手の図柄にも採用されました。

[国立西洋美術館主任研究員 川瀬佑介]

※《水飲み壺》は7月4日より企画展『スペインのイメージ：版画を通じて写し伝わるすがた』で展示予定。《インフェルノ（地獄）》は3月18日より常設展で展示予定。

アウグスト・ストリンドベリ《インフェルノ（地獄）》



アウグスト・ストリンドベリ《インフェルノ（地獄）》
1901年 油彩・カンヴァス 100×70cm 国立西洋美術館

19世紀スウェーデンを代表する劇作家で作家のアウグスト・ストリンドベリ(1849-1912)。戯曲『令嬢ジュリー』をはじめとする多くの著作で知られますが、彼はまた孤高の画家でもありました。パレットナイフを用いた厚塗りの大胆なタッチ、偶然の効果を取り入れた即興性や抽象性を特徴とする彼の実験的な絵画は、後に20世紀の様々な前衛芸術運動を先駆するものとみなされ、今日までめざましい再評価が続いています。

ダンテの『神曲』『地獄篇（インフェルノ）』に因んで、作家自身が「私のインフェルノ絵画」と呼んだ本作は、ストリンドベリの最重要作品のひとつです。画面の周囲は緑の茂みに覆われ、まるで洞窟の中央開口部から外の世界を望むような斬新な構図で、向こう側には混沌とした雲と荒れ狂う風雨が描かれています。本作は、3番目の妻で若き女優ハリエットとの幸せな新婚生活が、突如深刻な危機に陥った時期に制作されたとされ、牢獄のような暗い洞窟に、ストリンドベリの波乱と絶望に満ちた人生が投影されているようです。作家自身が一種の精神的自画像として特別視し、長く自宅の壁に掛けられた後、スウェーデンの名だたる美術館に長年寄託されていた作品です。

〔国立西洋美術館特定研究員 久保田有寿〕

Programs

学校プログラム——休館期間とその後

教育普及室では2020年10月から約1年半の休館期間を利用してさまざまなオンライン学校プログラムに取り組みました。例えば東京都の島嶼部にある御蔵島小中学校とは学校の校内作品展の期間に連携プログラムを設定し、まずは児童が自分の作品を、続いて私たちが美術館の作品を紹介しあいました。美術館の作品を対話によって鑑賞する中、児童からは「作者の感情や思い、気持ちに共感できた」、「細かい表現を描くのが大変そう」などの発言があり、自身の創作の発表と美術館の作品鑑賞を続けて行ったことが、作者の視点に立って作品を見る姿につながっていることを窺わせました。

その後当館は2022年4月にリニューアルオープンしましたが、コロナ禍の影響で対話型のギャラリートークの再開はできませんでした。そこで一作品を複数人で対話しながら見るのではなく、個人が好きな作品を選んで鑑賞するための補助ツール「国立西洋美術館アクティビティブック 美術館を楽しむ100のこと」を作成しました。美術館の様々な楽しみ方をワークシートによって体験する小冊子で、御蔵島小中学校との実践で得られたワークも入っています。実際の冊子は学校団体への限定配布ではありますが、ウェブサイトからデータをダウンロードできます。是非ご覧ください。hojotool.pdf (nmwa.go.jp)

〔国立西洋美術館教育普及室 松尾由子、長谷川暢子〕

News

募金活動のお知らせ：
《マリー・バシュキルツェフの胸像》展示に伴う、
ウクライナの美術館、博物館の復興支援について

当館では、ウクライナ生まれの女性芸術家マリー・バシュキルツェフを表した肖像彫刻（シャルル＝ルネ・ド・ポール・ド・サン＝マルソー作）の展示に関連し、ウクライナにおける危機に際し困難な状況に見舞われた美術館・博物館の復興を支援するため、2022年4月29日より募金活動を開始しました。これはICOM（国際博物館会議）による支援活動に賛同しておこなうものです。

活動期間中（終了時期未定）、本彫刻作品を常設展内（新館2階第5展示室）にて展示し、また本館1階ロビーのインフォメーション・デスクの向かいに、募金箱を設置しております。いただいた募金は、ICOM日本委員会を通じ、フランスのICOM本部に全額寄付され、ICOMウクライナにより同国内の美術館・博物館の支援のために使われます。第一弾として、2022年9月までに集まった募金（合計2,351,173円、期間：2022年4月29日～9月20日）を寄付いたしました。皆さまからの温かいご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

2023年度以降も本作品の展示・募金活動ともに継続を予定しております。

引き続き、皆さまのご協力、ご支援よろしくお願いいたします。

シャルル＝ルネ・ド・ポール・ド・サン＝マルソー
《マリー・バシュキルツェフの胸像》1895年頃 大理石
94×50×33 cm 国立西洋美術館 松方コレクション



※本作は現在常設展にて展示中です。

〔CAFÉ すいれん〕

営業時間：10:00-17:30（食事11:00-16:45 | 喫茶10:00-17:15）／金・土曜日10:00-20:00（食事11:00-19:10 | 喫茶10:00-19:30）

〔ミュージアムショップ〕

クロード・モネの《睡蓮》、フィンセント・ファン・ゴッホの《ばら》の二つの絵画と当館本館を設計したル・コルビュジエの《散策広場スケッチ》をモチーフにした4つのマグカップをご用意しております。

当館を代表する所蔵作品の《睡蓮》と《ばら》の柄は明るい色使いが映える一品。一息ついたり、気分を変えたり、そんな時のきっかけにしたい商品です。

《散策広場スケッチ》柄はル・コルビュジエが国立西洋美術館の設計の際に自らの手で描いたスケッチを白と黒の色違いのマグカップに配置したもので、モノトーンの空間にも合うとご好評をいただいています。ペアでギフトとしてもおすすめです。

ご家庭でも仕事場でも使いやすいシンプルなかたちのマグカップは岐阜県的美濃焼で、食洗器にも対応しています。ぜひお気に入りの絵柄を日常に取り入れてみてください。



オンラインショップ
https://www.nmwatokyo-shop.org



ミュージアムショップ公式 Instagram
@nmwatokyo_shop



マグカップ各1,500円(税込) 左から、ル・コルビュジエ《散策広場スケッチ》、ゴッホ《ばら》、モネ《睡蓮》

展示カレンダー〔企画展示／常設展示〕2023年2月－6月

2月 [Feb.]	3月 [Mar.]	4月 [Apr.]	5月 [May]	6月 [Jun.]
全館休館 1月23日[月]－3月17日[金]				
常設展 〔企画展〕 憧憬の地 ブルターニュ ― モネ、ゴッガン、黒田清輝らが見た異郷 3月18日[土]－6月11日[日] 〔小企画展〕 橋本コレクション展 ― 指輪よりどりみどり 3月18日[土]－6月11日[日]				

〔開館時間〕9:30-17:30（金・土曜日 9:30-20:00）＊入室は閉室の30分前まで

〔休館日〕月曜日（月曜日が祝日又は祝日の振替休日となる場合は開館し、翌平日休館）、展示替期間
年末年始、臨時休館日

〔臨時開館・臨時休館のお知らせ〕

臨時開館：2023年3月27日[月]、5月1日[月]

臨時休館：2023年1月23日[月]～3月17日[金]（館内整備のため）

〔常設展無料観覧日〕5月18日（国際博物館の日）、11月3日（文化の日）

〔常設展〕

国立西洋美術館は、松方コレクションが核となって1959年に設立された、西洋の美術作品を専門とする美術館です。

中世から20世紀にかけての西洋絵画と、ロダンをはじめとするフランス近代彫刻などを本館、新館、前庭で年間を通じて展示しています。

＊展覧会名、会期、展示内容等は変更の可能性があります。最新の情報は国立西洋美術館公式ホームページをご確認ください。